楽しい穴埋めストーリー

楽しい穴埋めストーリーは、友達や家族と楽しめる遊びです。パーティー、特別な日、家族の団らん、職場の昼休みが一段と盛り上がります。交代で各空白にさまざまな単語を埋めていきます。埋めたら席に戻って、面白くなっていくストーリーを堪能しましょう。Word を使えば、独自の楽しい穴埋めストーリーを簡単に作成できます。

# 独自の楽しい穴埋めを作成する

最初に、次の簡単なヒントを参考にしてストーリーを作成します。

* 有名な音楽や文学から始める: たとえば、記念日のためのストーリーを作成するのであれば、"How do I love thee?" や "You are my sunshine" などの曲を使ってみてはいかがですか?
* 人間関係にまつわるストーリーを組み立てる: 母の日であれば、子供たちに母親と一緒にやりたいことについて他愛ないストーリーを作成させます。たとえば、一緒にパンケーキを作る話や、雨の中で家族でキャンプしたときの話などです。
* 自分のことをストーリーにする: 「私が子供の頃は、... はありませんでした」などです。 これは、祖父母と孫が一緒に楽しめるストーリーです。
* 目的の行事に関連するストーリーを作成する: たとえば、出産前のお祝いであれば、どんな誕生物語になるかを予想してストーリーを作成し、空白を埋めて楽しむことができます。
* どれもうまく行かない場合は、単純に今日のことについて書いてみましょう。「今朝、目が覚めたらすぐに洗面所に行き、\_\_\_\_\_\_ を磨きました。そのとき、鏡に映った \_\_\_\_ を見ました。」

# 書式の設定と空白

ストーリーを書き上げたら、各文から 1 つまたは 2 つの語を削除します。キーボードの水平線キーを使って、独自の空白を設定します。各空白に品詞のラベルを付けるには、次の行に移動し、説明スタイルを使ってフォントを小さくします。ストーリーを続けるには、次の行に移動して、ストーリー スタイルに戻します。もっと楽しいものにしたい場合は、アイコンを使って、画像、表現、季節などをストーリーに追加します。穴埋めにアイコンを使う場合は、空白を大きくする必要があります。

# さあ、今度はあなたの番です。

ここでは、手始めとして楽しいストーリーをいくつか紹介します。友達や家族と一緒に埋めてみてください。その後、説明に従って自分で作ってみてください。

## ストーリー 1: 完璧な冒険

むかしむかし、1 匹のキツネがいました。 一番の友達は、\_\_\_\_\_\_\_\_ ラマでした。ラマの

形容詞

誕生日に、キツネは友達を \_\_\_\_\_\_\_\_ 冒険に

形容詞

連れ出して、お互いに対するすばらしい愛を祝うことにしました。2 匹は何から始めればよいのかわからなかったので、\_\_\_\_\_\_\_\_ することから始めました。\_\_\_\_\_\_\_\_ の道を辿り、2 匹は

動詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 名詞、複数形

 \_\_\_\_\_\_\_\_ の \_\_\_\_\_\_\_\_ 土地が見つかるまで進みました。その土地に住む

名詞、複数形　　　　　　　形容詞

\_\_\_\_\_\_\_\_ 生き物たちの仕事は、一日中 \_\_\_\_\_\_\_\_ ことでした。

　　　　 形容詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　動詞

2 匹はその生き物たちの 1 匹に近づき、お勧めの \_\_\_\_\_\_\_\_ 冒険は何かとたずねました。その生き物は答えました。

形容詞

"\_\_\_\_\_\_\_\_! それは簡単なことだ。 いつまでも語り継がれるような、何か　\_\_\_\_\_\_\_\_ ものを作りなさい。"

　　　間投詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　形容詞

そこで 2 匹は　\_\_\_\_\_\_\_\_ ために出かけていき、一緒にとても小さい \_\_\_\_\_\_\_\_　をとても大きい \_\_\_\_\_\_\_\_

動詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 名詞　　　　　　　　　　　　名詞、複数形

で作りました。　戻ってくると、2 匹は \_\_\_\_\_\_\_\_ 生き物から 2 番目の意見を聞きました。

形容詞

その生き物は次のように助言しました。"自分の暮らしや、世界を \_\_\_\_\_\_\_

動詞

方法を変えるようなことをしなさい。" そこで、2 匹は \_\_\_\_\_\_\_\_ 飛ぶ訓練をし、

形容詞

あらゆる種類の \_\_\_\_\_\_\_\_ 驚きを発見しました。

形容詞

そのころには、このとても \_\_\_\_\_\_\_\_ 日も暮れようとしていました。ラマは

形容詞

幸せそうな \_\_\_\_\_\_\_\_ を顔に浮かべて眠りに落ちましたが、キツネは

アイコン、表現

\_\_\_\_\_\_\_\_、無駄にした時間のことを気にしていました。ちょうどそのとき、ラマの姿がキツネの目に留まりました。ラマの手には、

　　形容詞

冒険について詳しく記された \_\_\_\_\_\_\_\_ 旅行記が握られていました。そのとき、

形容詞

キツネは \_\_\_\_\_\_\_\_ 悟ったのです。どこであっても、2 匹が一緒にいられことが \_\_\_\_\_\_\_\_

副詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　形容詞

冒険だということを。キツネは友達の隣に落ち着くと、自分の \_\_\_\_\_\_\_\_ をラマに巻き付けて、

名詞

それまでで一番満ち足りた気持ちで \_\_\_\_\_\_\_\_ ため息をついたのでした。

アイコン、表現

## ストーリー 2: ステージ

ある日の登校前、私は、少し \_\_\_\_\_\_\_\_気分でした。突然、一

アイコン、表現

陣の風が吹いて、\_\_\_\_\_\_\_\_ ドアが開き、理科の宿題を \_\_\_\_\_\_\_\_ した

形容詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 動詞、過去形

のです。私は跳び上がって外に \_\_\_\_\_\_\_\_ した。そのとき私はそれまでなかった

動詞、過去形

\_\_\_\_\_\_\_\_ ドアが森の中にあることに気付きました。私が用心深く頭を

　　　　形容詞

突っ込んでみると、\_\_\_\_\_\_\_\_が見えました。そこで私が \_\_\_\_\_\_\_\_ して \_\_\_\_\_\_\_\_すると、

名詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　動詞、過去形　　　　　 動詞、過去形

大きい \_\_\_\_\_\_\_\_ 部屋につながる通路が見えました。\_\_\_\_\_\_\_\_!部屋の内部は、あらゆる種類の \_\_\_\_\_\_\_\_

形容詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 アイコン　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　名詞、複数形

がキラキラ輝くステージの周りに集められていました。私は自分の \_\_\_\_\_\_\_\_を信じられませんでした!

名詞、複数形

驚いたことに、突然、マイクから \_\_\_\_\_\_\_\_ 私の

副詞

名前を呼ぶ声が聞こえました。私がよろめきながら \_\_\_\_\_\_\_\_ 前に出て行くと、多くの

副詞

観衆が期待して待っていました。私は落ち着こうとしましたが、内心では \_\_\_\_\_\_\_\_!私は決められた場所に立ちましたが、

アイコン、表現

驚くことに、気が付くと　私が \_\_\_\_\_\_\_\_ マイクに向かって歌う声はすべて、\_\_\_\_\_\_\_\_ 響き渡りました。何を歌っても、

形容詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　副詞

観衆は \_\_\_\_\_\_\_\_ 熱狂しました。そこで私は、何時間も

副詞

\_\_\_\_\_\_\_\_ 疲れ果てるまで歌いました。

副詞

突然、私は目が覚め、台所にいました。母親が鍵を探し回っているのが見え、学校に \_\_\_\_\_\_\_\_

動詞

時間になっていました。私は、びっくりしました。 すぐ

目の前にある、\_\_\_\_\_\_\_\_の下に宿題が落ちていたのです。私は宿題をつかみ取り、ドアに向かって \_\_\_\_\_\_\_\_

名詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　動詞

ました。そのとき、私は \_\_\_\_\_\_\_\_ 光るものが少し縁に付いていることに

形容詞

気付きました。\_\_\_\_\_\_\_\_!きっとあれは夢ではなかったのです! なんと \_\_\_\_\_\_\_\_ 日なのでしょう!

間投詞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 形容詞